

## サガン鳥栖 あいさつ運動&サッカー交流 スポーツを楽しんで元気に成長してほしい

サガン鳥栖の元選手で、現在株式会社サガン・ドリームス（鳥栖市）所属の高橋義希さんと、マスコットキャラクターのウイントスくんが、黒川小学校であいさつ運動を行いました。児童は、高橋さんとウイントスくんに興奮した様子で駆け寄り、元気にあいさつしました。また、サッカー交流では、児童が高橋さんの応援歌を歌う場面があり、明るい笑い声が響き、元気に走り回っていました。児童は、「ボールを蹴る高橋さんが格好よかった。自分も練習して上手になりたい」と憧れのまなざしを向けていました。



↑高橋さんとボールを元気いっぱい追いかける児童たち

## オリジナルフレーム切手『伊万里トンテントン祭り』発行 切手を通して伊万里を盛り上げたい

日本郵便株式会社九州支社（熊本市）が、オリジナルフレーム切手『伊万里トンテントン祭り 2022』を作成し、10月3日に販売を開始しました。伊万里トンテントン祭りを題材にしたオリジナルフレーム切手の作成は3回目。切手には、合戦などの様子が臨場感たっぷりに描かれていて、毎回完売している人気の切手です。発売にあわせて、市役所で行われた贈呈式で、同社の笹島清香佐賀地方本部長は、「この切手をきっかけに市外からも来てもらい、祭りや伊万里を盛り上げていきたい」と話しました。



↑切手を贈呈した笹島佐賀地方本部長（左から3人目）と日本郵便株式会社関係者

## 柳田邦男うちどく講演会～七ツ島大橋完成記念～ 絵本は心を揺さぶる魔法の宝箱

黒川町家読連絡会とうちどく活動を行う団体『おはなしどんぐり』が、ノンフィクション作家の柳田邦男さんを講師に招いて、うちどく講演会を行いました。家読の応援団長として、全国各地で講演する柳田さんは、絵本を通じた子どもたちとのやりとりの中で発見してきた子どもの感性の豊かさや絵本の持つ力などを紹介しました。そして、「子どもの心は揺れ動いている。そのときに、どんな気づきと出会えるのかは、その子の人格形成に大きく影響する」と、読み聞かせの大切さを熱く語りました。



↑「読み聞かせはその子の一生に関わるほど大切なこと」と話す柳田さん

## うちどくタウンミーティング in 伊万里 絵本があるこのまちに住んでよかった

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す取り組み『うちどく』を県内に広めるため、佐賀うちどくネットワークの主催により、市民図書館でイベントがありました。この日は、オンラインでの視聴者もいて、まずは生活の中の身近な絵本をテーマに、<sup>こうかみ</sup> 鴻上哲也図書館長のコーディネートで、3人の話し手が取り組み事例などを報告しました。その後の記念講演では、画家でイラストレーターの古山拓さんが絵本の魅力について語り、参加者は古山さんが絵筆に託す思いに聞き入っていました。



↑絵本を通して学校と地域との関わりの実践例を報告する唐津市立北波多小学校教諭の砂原未来さん（右から2人目）